

# 中間市新中学校施設整備実施計画(概要版)(案)

## 1. 実施計画策定の目的と経緯

近年、少子高齢化や情報化等によって大きく変化している教育環境に対し、多くが築50年以上が経過している中間市の中学校校舎では、教育内容の充実や変化への対応が困難な状況です。このため、令和4年4月に「中間市学校施設再編基本計画」、令和7年1月に「中間市学校施設整備方針」を策定し、将来にわたって持続可能な学校施設の整備に取組んでいます。

実施計画は、これらを踏まえ、教育環境の充実とともに、地域活動や災害時の拠点としての機能を併せ持つ新中学校施設の整備に当たり、基本的な考え方を示すものであり、より詳細な検討及び設計を行う際の指針となるものです。

## 2. 計画コンセプトと基本方針

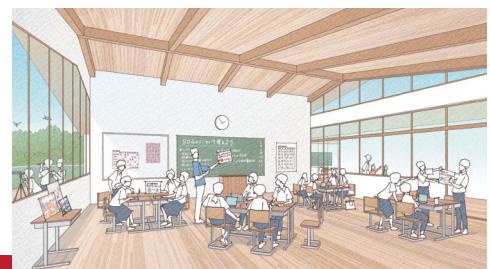
### 地域とともに未来を拓き育む、次世代の新中学校

新中間中学校（仮称）及び新中間東中学校（仮称）は、市の中心部に近接し、交通の利便性が高く、人・まち・地域とのつながりが強い地域に立地しています。現状の敷地が抱えている課題を早期に解決することで、良質な教育環境を確保します。また、地域が主体的・多元的に参加しながら、地域全体で創り上げる新しい中学校は、新たな地域コミュニティの拠点として地域の活性化に寄与します。

#### — 4つの基本方針 —

##### 1. 安全・安心な学びの場

- 最新の技術や独自のノウハウを駆使し、敷地高低差や既存擁壁及び法面、狭隘なアクセス道に対する課題を解決。
- 子どもファーストの安全な施設づくりと保護者や地域から信頼される環境を整備。



##### 2. 未来を見据えた計画

- ICTやインクルーシブ教育等、多様な学びやニーズに対応する柔軟な施設づくり。
- 子どもたちが主体的に学び成長できる環境づくり。
- 教職員が最大限に能力を発揮できる空間づくり。



##### 3. 地域とともにある学校

- 美しく長閑な自然景観と産業革命遺産等の歴史・文化を継承する学校づくり。
- 地域社会や地域コミュニティとの接点となり、まちづくりの拠点としても貢献できる新たなまちのシンボル。



##### 4. 環境・防災・経済性

- 施設や地域特性を考慮した明るく心地よい生活・学習空間=地球上にやさしい学校づくり。
- 災害時を想定した万全の防災施設計画。
- 徹底したコストマネジメントと工程管理。





### 3. 既存校舎の概況

既存の中間中学校及び中間東中学校は、建築後50年以上が経過しており、外壁のひび割れや雨漏り等の現象が発生し、部分的な老朽化対策や施設更新等の整備を実施してきました。しかし、今回実施した耐力度調査の結果から、中間中学校は校舎の3分の2の範囲、中間東中学校は校舎の全ての範囲が、十分な安全性を確保できていない状態である可能性が高いと考えられますので、生徒の安全・安心な学びの場となる充実した教育環境を整備することが喫緊の課題となっています。

### 4. 施設整備手法の検討と方針

新中学校の施設整備においては、個別最適な学びと協働の学びの実現に向け、生徒が安全かつ快適に学ぶことができる教育環境の充実を図ることが求められています。一方で、学校施設は市民の財産であり、その有効活用やライフサイクルコスト<sup>\*1</sup>の縮減等を含め、最善の方法を検討する必要があることから、長寿命化改修と新築（建替え）を多角的に比較しました。

ライフサイクルコストを比較したところ、新築の方が40年間で約20億円のコスト削減が見込まれるほか、中間中学校及び中間東中学校の既存校舎は、耐力度調査の結果、生徒の教育環境として十分な安全性を確保できていない可能性が高いと考えられます。また、長寿命化改修は、構造上の制約から大規模な空間構成の変更が困難であり、現代の教育ニーズへの対応には限界があります。

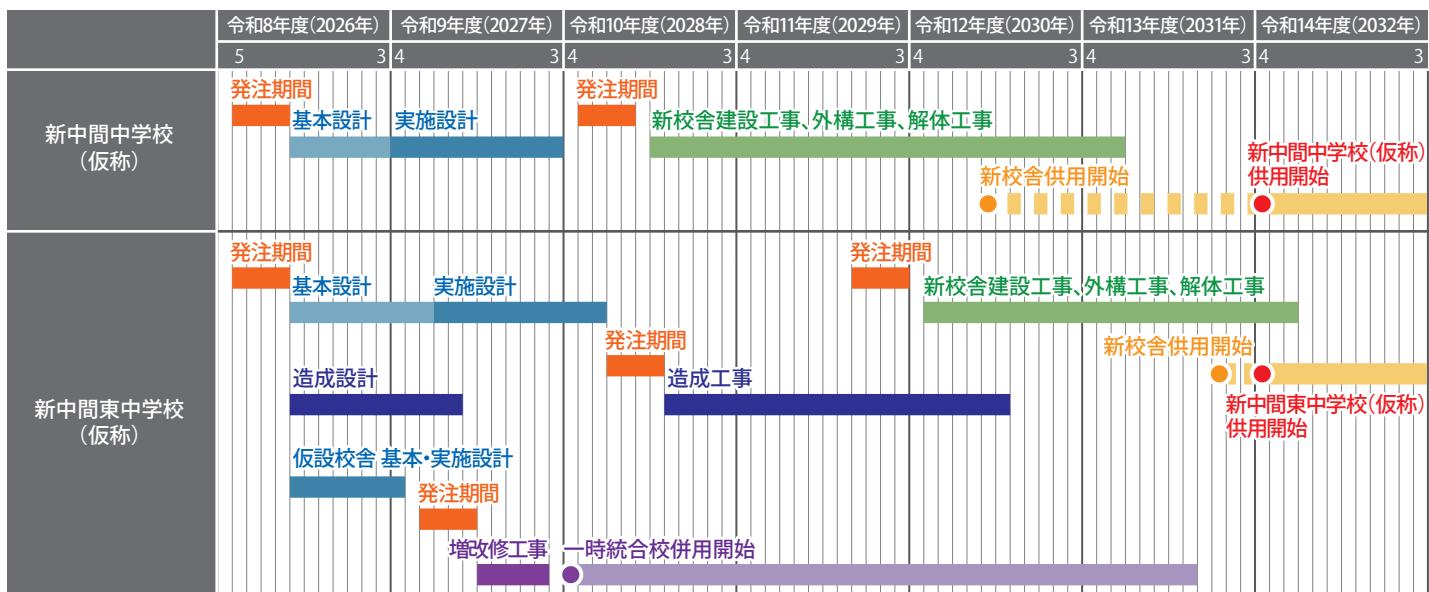
以上のことから、新中学校の施設整備は、教育の質の向上・地域コミュニティの活性化・長期的な財政効率化・安全性の確保等、多面的な価値を生み出す未来を見据えた戦略的投資と捉え、「新築」を選定します。

\*1 ライフサイクルコスト：建築物の企画・設計から解体までの間に発生する費用の合計。

### 5. 学校給食施設について

現在、市立小中学校の給食は、小学校で調理して中学校に配送する「親子方式」による完全給食を実施しています。今後の小学校再編を視野に入れ、これからの中学校施設にとって最適な提供方式を検討した結果、こどもたちの食生活をより豊かにする食育環境を実現するとともに、災害時の炊き出し等が可能となる地域防災拠点としての機能強化に寄与することから、新中間中学校（仮称）及び新中間東中学校（仮称）の両校に学校給食施設を新設し、小学校へ配送する計画とします。

### 6. 事業スケジュール



※今後の進捗状況や発注方法、設計・工事内容、開発の有無等によって変更する可能性があります。

## 7. 建設概要

新中間中学校(仮称)と新中間東中学校(仮称)の計画地は、敷地内段差や狭隘なアクセス道、擁壁や法面の劣化等、様々な課題を抱えています。各計画地の現況を把握し、対応策を踏まえ、新中学校に必要と考えられる機能について検討し、敷地の形状や施設整備の考え方を整理します。

### 新中間中学校(仮称)

所 在 地：福岡県中間市大字垣生510 番地

敷 地 面 積：34,368m<sup>2</sup>

校 舎 面 積：約8,700m<sup>2</sup>

※屋内運動場・武道場：約2,000m<sup>2</sup>を含む

※学校給食施設：約450m<sup>2</sup>を含む

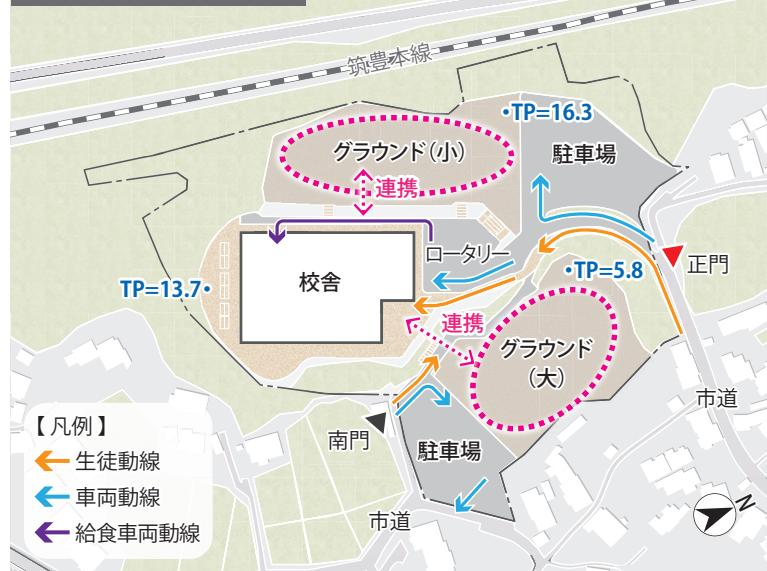
構造・階数：鉄筋コンクリート造・3階建て

普 通 教 室：9クラス想定

概算事業費：約73.6億円

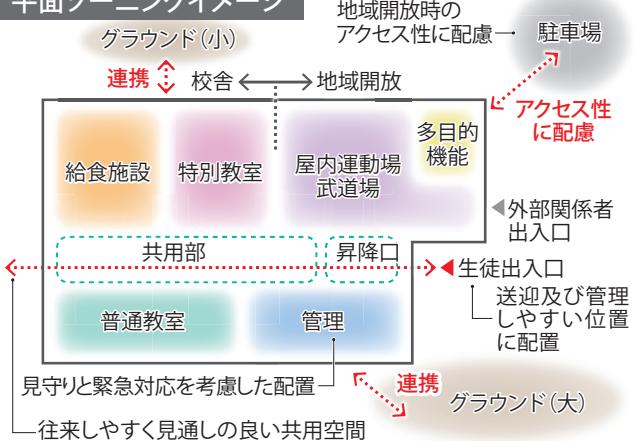


### 配置ゾーニングイメージ

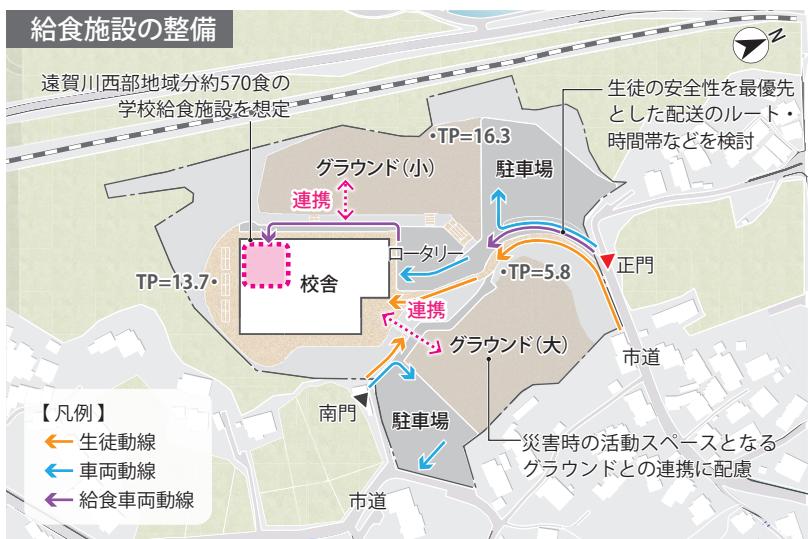
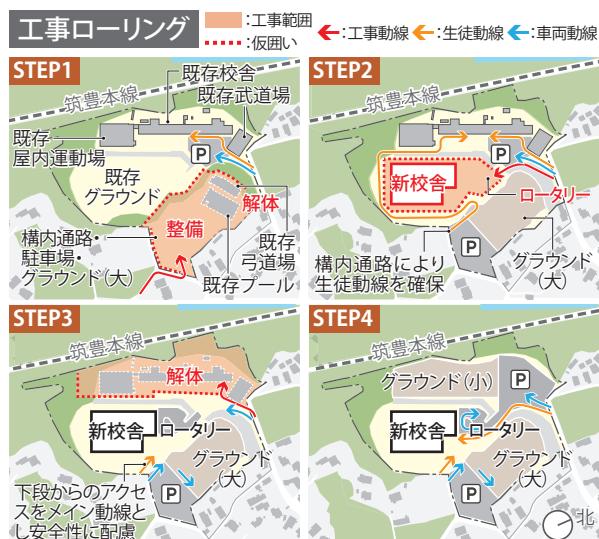
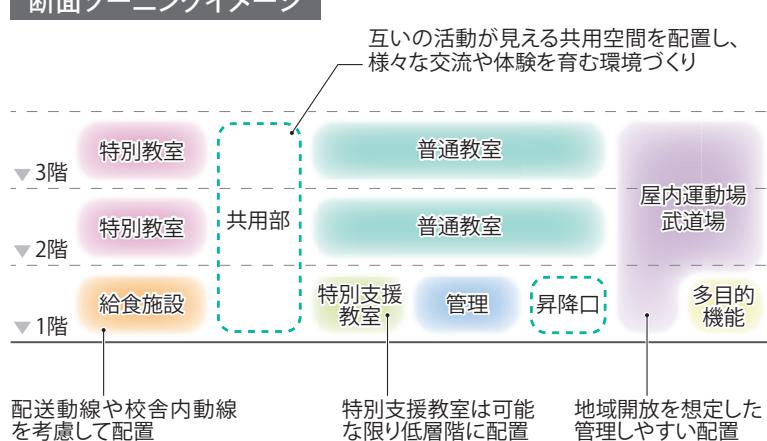


新校舎棟を敷地の中段に配置することで、利便性・アクセス性の向上、JR本線から十分に離隔することによる学習環境の確保、仮設校舎を不要とする計画を実現します。段差部分には、構内通路や屋外階段・スロープを設置し、各レベルにアクセスしやすい安全な動線を確保します。また、遠賀川西部地域分を担う学校給食施設の併設や小学校及び学童保育所の併設を見据えたスペースの確保等、将来的な計画に柔軟に対応できる配置計画とします。

### 平面ゾーニングイメージ



### 断面ゾーニングイメージ



## 新中間東中学校（仮称）

所 在 地：福岡県中間市扇ヶ浦三丁目21番1号

敷 地 面 積：47,879m<sup>2</sup>

校 舎 面 積：約11,750m<sup>2</sup>

※屋内運動場・武道場：約2,350m<sup>2</sup>を含む  
学校給食施設面積：約2,300m<sup>2</sup>

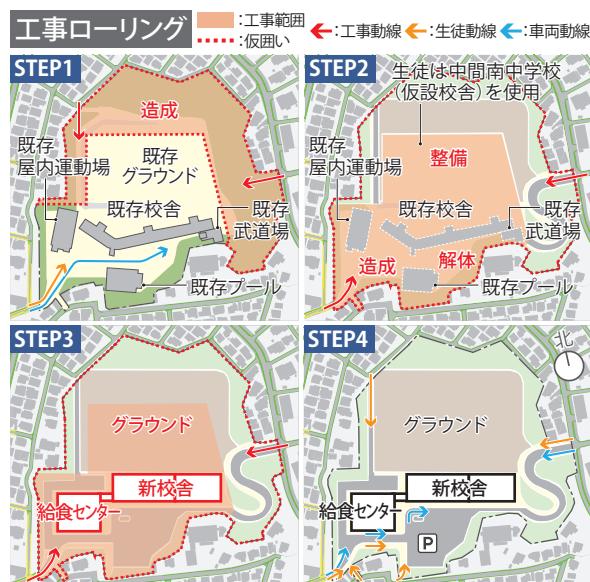
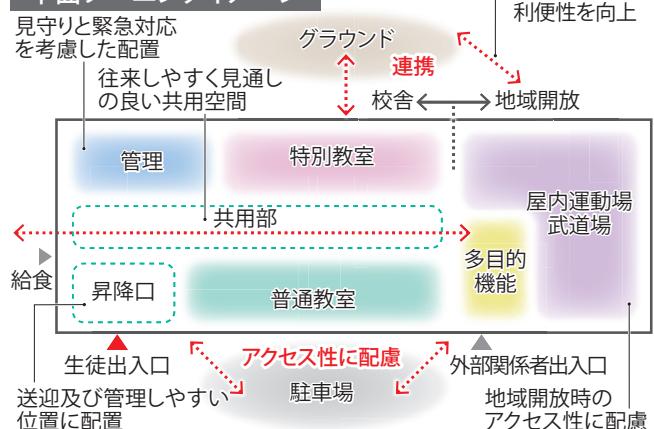
構 造・階 数：鉄筋コンクリート造・4階建て

普 通 教 室：24クラス想定

概 算 事 業 費：約119.6億円



### 平面ゾーニングイメージ

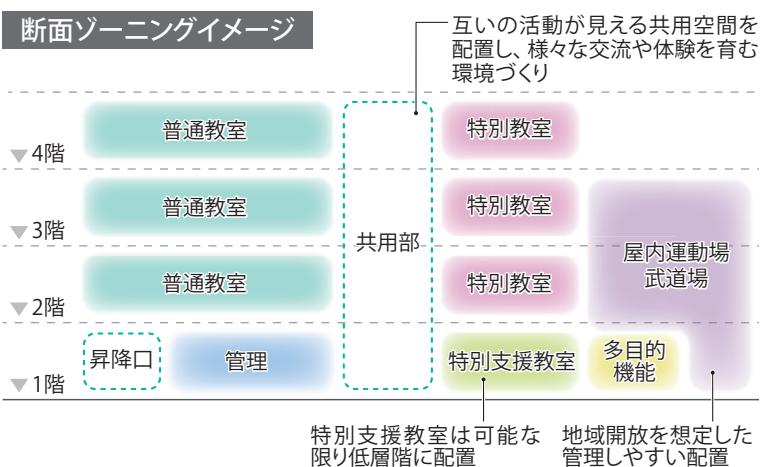


### 配置ゾーニングイメージ

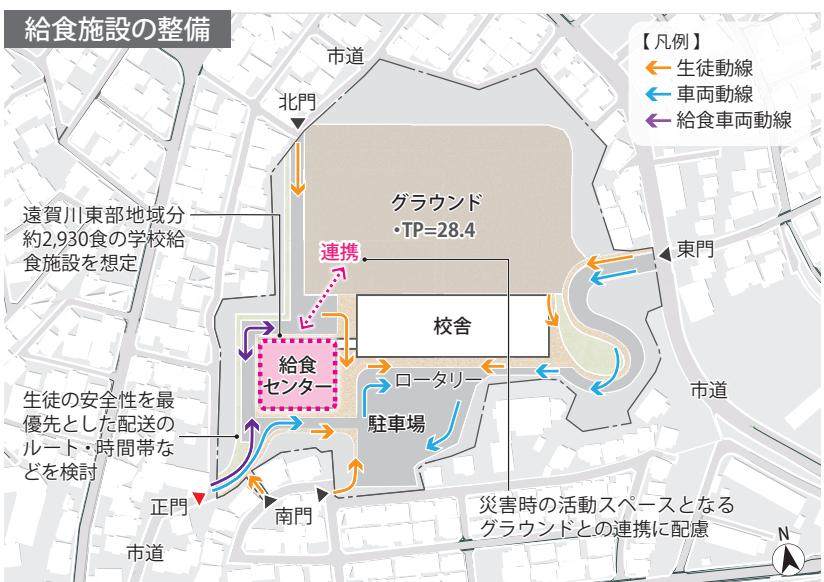


複雑かつ高低差のある敷地形状と狭隘なアクセス動線を改善するため、先行して全面造成工事を行います。近接する中間南中学校を一時統合校（仮設校舎）として整備することで、新校舎棟を既存校舎の位置に建替え、グラウンドを最大限に確保します。広域な校区を踏まえた多方向からのアクセス動線を整備し、歩車分離を徹底することで、登下校の利便性と安全性を確保します。また、遠賀川東部地域分を担う学校給食施設を併設します。

### 断面ゾーニングイメージ



### 給食施設の整備



中間市教育委員会 教育総務課 令和8年発行

電 話 093-246-6221(直通)

メ ール kyouikusoumuka@city.nakama.lg.jp

